

真庭なりわい塾の目指すもの

真庭なりわい塾

渋谷 寿一

(2025/5)



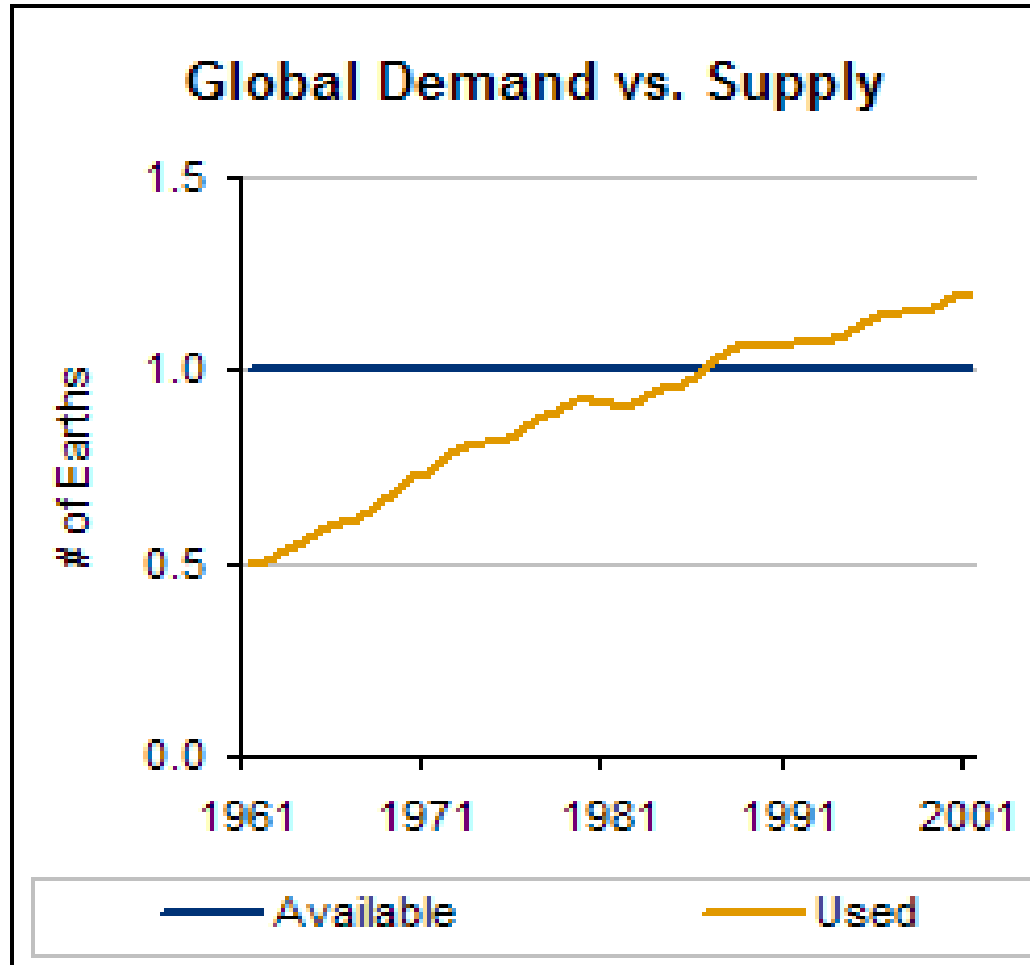
聞き書き甲子園

2002年～現在(今年23回目)

曾祖父母、祖父母 85歳以上 戦前生まれ 数万年続いた	お爺さん・お婆さん 80代～70代 高度経済成長期 1960(S35)～1965(S40)	高校生～お父さん・お母さん 10代後半から60代 それ以降 60年の実績
農村中心(生きる＝働く) 自給自足 薪や炭 体を使って働く 歩く・馬や牛 伝統的な知恵や技 自然の厳しさ、豊かさ	東京オリンピック 新幹線開通 名神・東名高速道 三種の神器 自家用車 トラクター(耕運機) 刈り払い機 チェーンソー	都会中心(お金の社会) 冷凍食品・レトルト 石油・ガス・原子力 電化製品・パソコン 自動車・新幹線 情報化社会 公害問題・地球温暖化

エコロジカル・フットプリント

ー地球の足形(自然の成長量をどれだけ人間が使っているか)ー



83億の人間が、
日本人と同じ暮らしをすると、
地球が、**3**個必要。

持続可能ではない、

「現在の普通の暮らし」

日本は先進国なのか!?

経済発展の限界

中国が一人当たり、アメリカと同量の**牛肉を消費**すると

⇒ 餌として必要な穀物＝アメリカ合衆国の総穀物収量と同等

中国が一人当たり、日本と同量の**水産物を消費**すると

⇒増加量は、現在の世界の海洋からの総水揚げ量を上回る

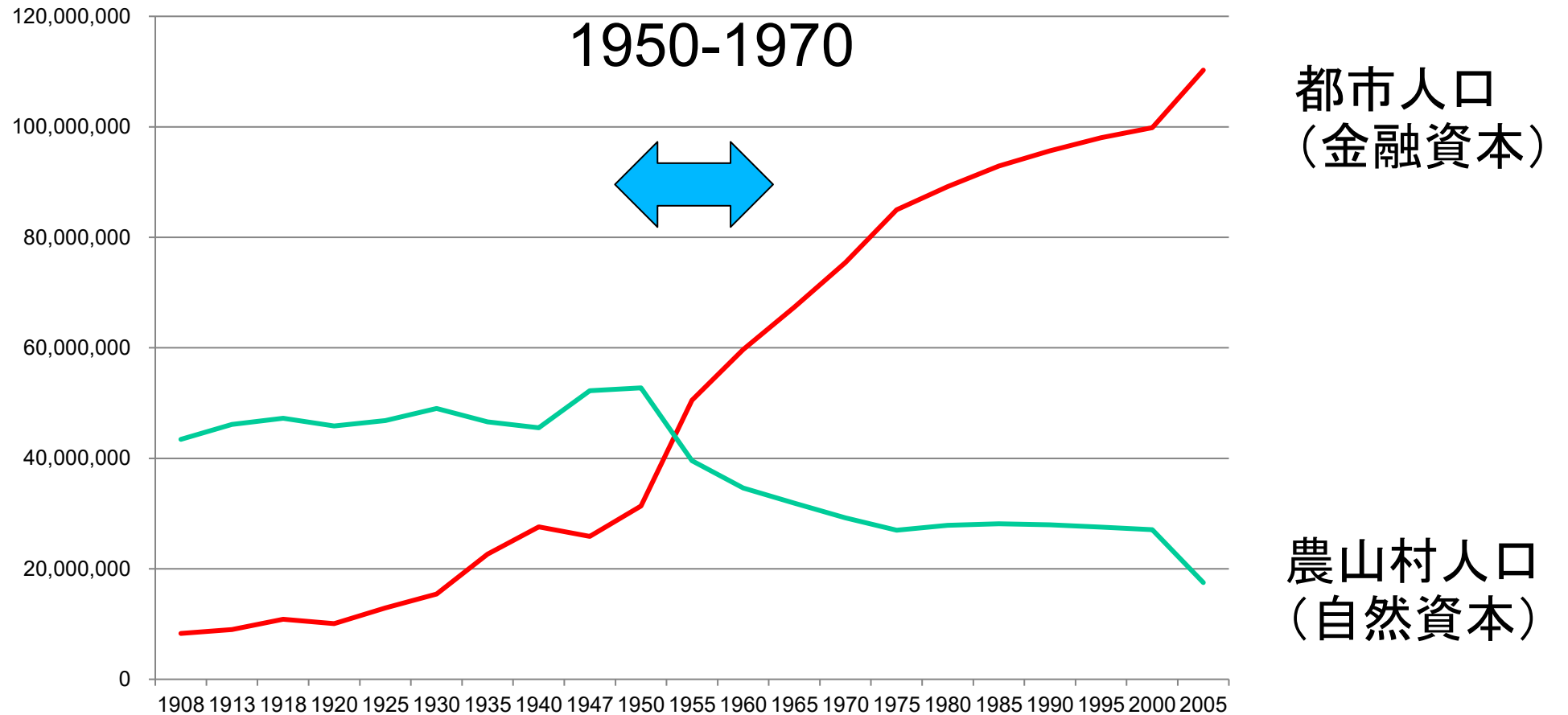
中国が一人当たり、欧米、日本と同じ割合で**車を所有**すると

⇒必要な石油8000万バレル/月＞世界の総産油量6400万バレル/月

中国が一人当たり、アメリカと同じ**炭素を排出**すると⇒世界の炭素排出量は倍増

中国をインド、ロシア、ブラジルに換えても同じことが言える

都市/農村人口推移 都市化の進展



出展: 名古屋大学高野雅夫教授資料

暴走をはじめた資本主義

(1990年以降のグローバル経済)

コミュニケーションの道具としての「**お金**」、世界中で通用する、**公平で共通な「道具」**



公平だが限度がない(**欲望の抑制が効かない**)

バーチャルな貨幣(株、為替差益、債券・・)の増加・パソコンの普及

ウォール街経済(**貨幣が貨幣を生む仕組み**、リスクの証券化)

実体経済の70~100倍のバーチャルなマネー



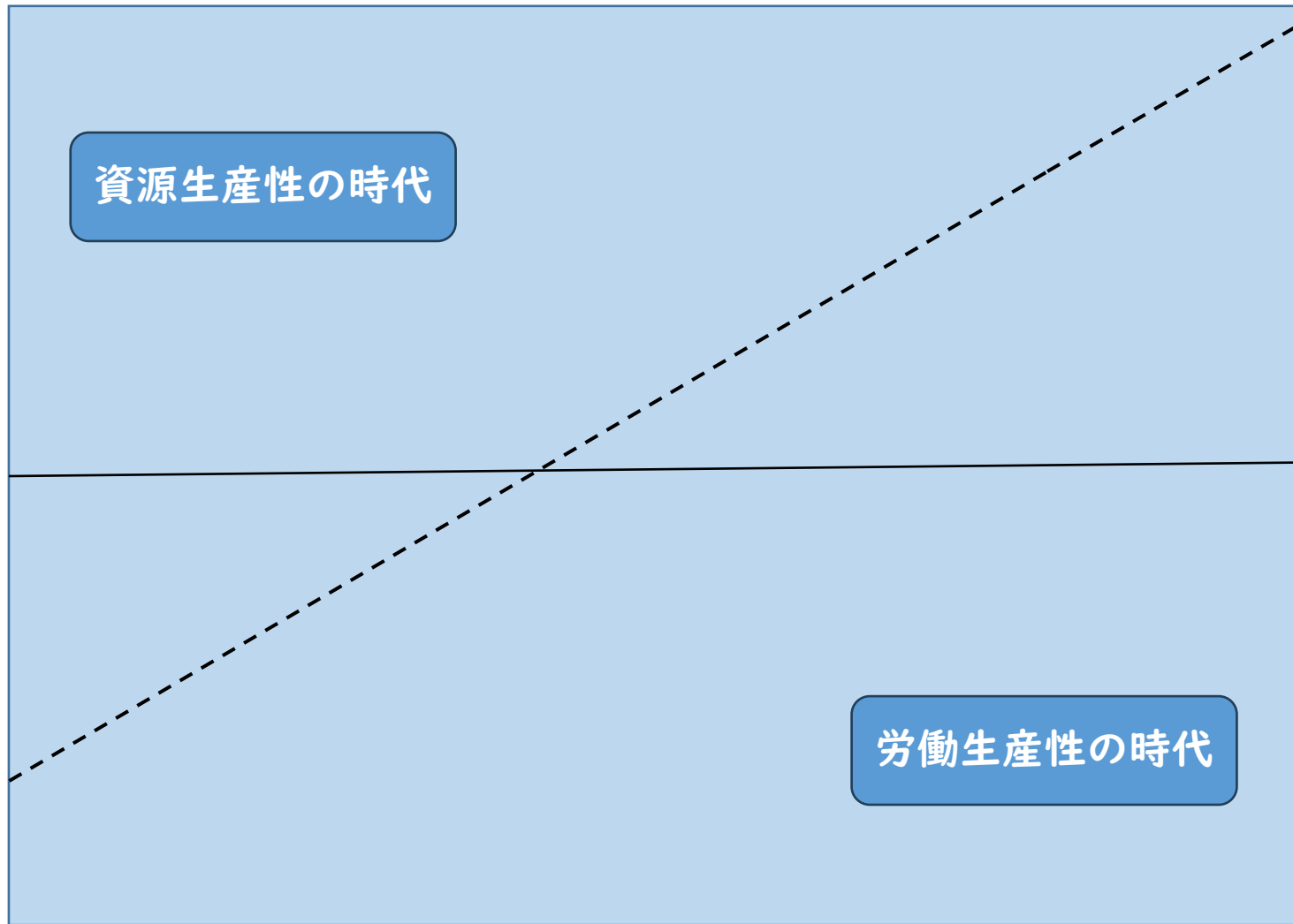
地球は有限、75億の人口の生存を貨幣は担保できるか？

「**いのち**」や「**持続可能性**」を「**お金**」で保障できるか？

そもそも、**エコロジー**（自然）あつての、**エコノミー**（経済）

世界の**富**の**50%**以上を**1%**の人が持つ(トランプ現象・不公平感)

「直進する時間」と「循環する時間」



私たちの知る唯一つの「持続可能な社会」

それは、「先祖」から続く、今の「あなた」



奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

子供たちの未来に関する予測

子供たちの**65%**は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

今後10～20年程度で、約**47%**の仕事が自動化される可能性が高い

マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ 高度経済成長期の論理

(現在～これからの20年)
「 生きる意味を問う労働 」
(meaning of life)

地に足がつき、 コミュニティの中で必要とされる。

自然の中で、その恵みを得ながら、必要最低限のモノを持つ暮らし。

多くの人と、世代がつながっている社会を実現する。

お金より共感や協働。 共感できなくても、地域で共生(自治)。

Do より Be が大切。 働くことは、生きること。

お互いが持つ弱みを許容し、そこから社会づくりを考える...

人生は、「職業選択」ではなく「生き方づくり」

生きることの意味

地球上で、人間も、他の生き物も、生き続けるには

⇒ 環境・経済・社会のモデル + 生き方・働き方モデル

(SDGs, 環境問題, 経済発展, 科学技術)

(価値観づくり・人づくり・愛)

物質的、経済的豊かさだけを求めない、

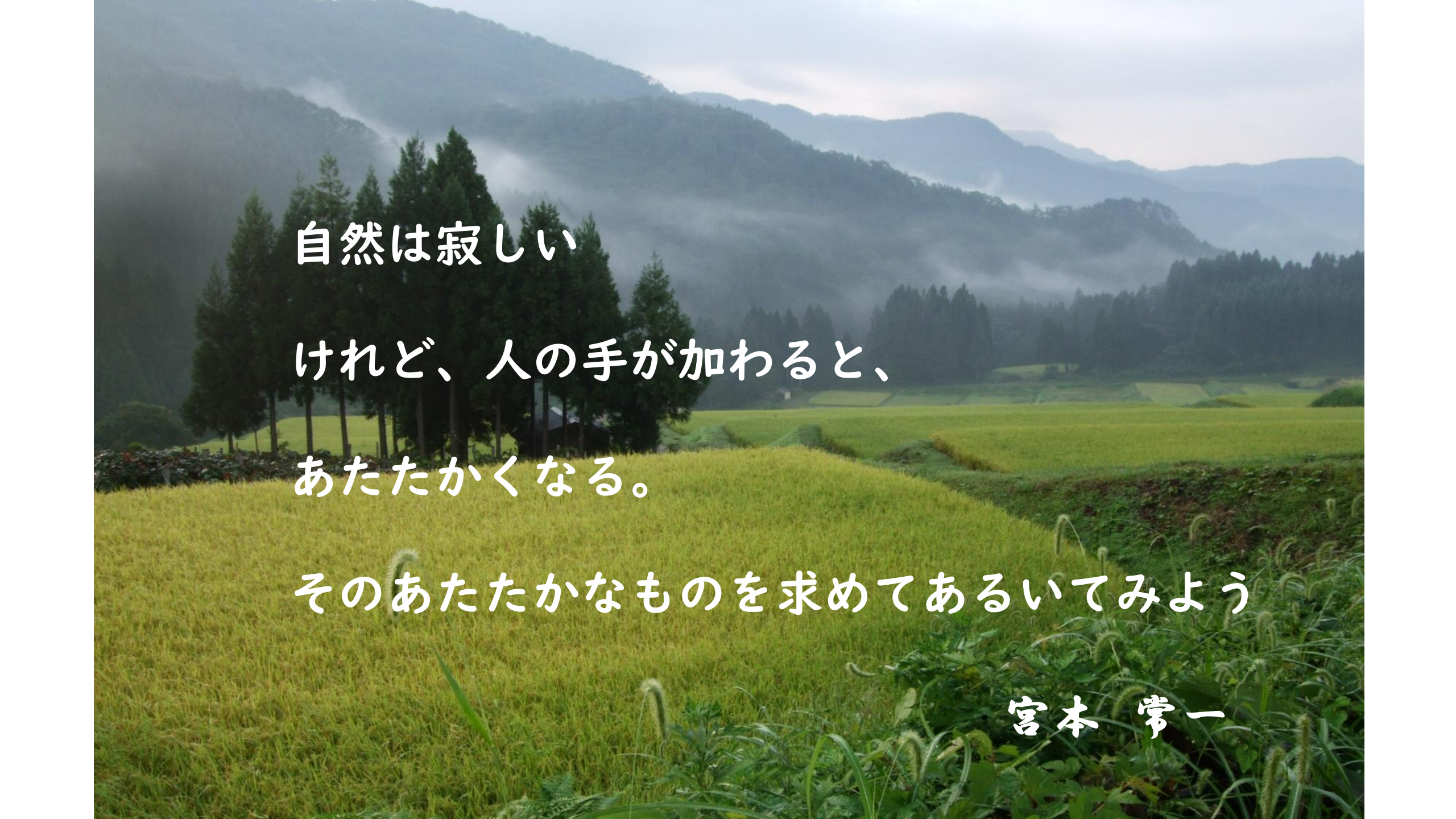
「未来の社会」「幸福」「生きがい」を皆で考える、

「真庭なりわい塾」

地域とは何かー集落の歩き方

風景を読み解く

「地元学」

A misty mountain landscape with a green field and evergreen trees. The scene is serene and atmospheric, with layers of mountains visible in the background under a soft, overcast sky. In the foreground, there's a lush green field with some taller plants on the right. A line of dark evergreen trees stands in the middle ground, partially obscuring a small building. The overall mood is peaceful and contemplative.

自然は寂しい

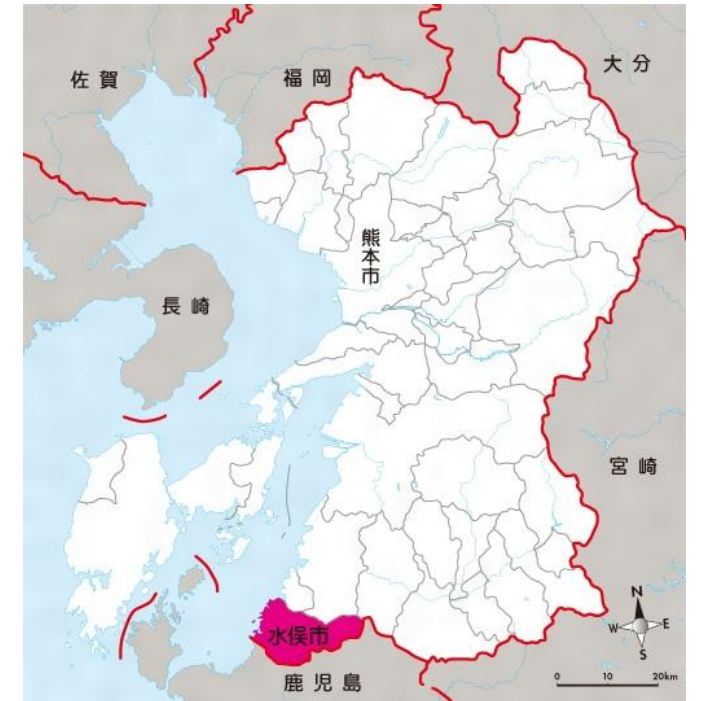
けれど、人の手が加わると、

あたたかくなる。

そのあたたかなものを求めてあるいてみよう

宮本 常一

地元学の誕生—水俣市—



水俣病

水俣病を産んだもの、「近代文明」(有機水銀)

水俣病が産んだもの、「差別」「社会の分断」

(福島原発被害、コロナ禍、学校のいじめ、被差別部落と同じ構図)



水俣のピエタ像

→裁判と金銭補償では、
解決しない！ チッソは自分だ。

水俣病認定申請患者協議会会長

緒方正人

「地元学」を生み、
環境都市を宣言し、

「**舫い直し**」

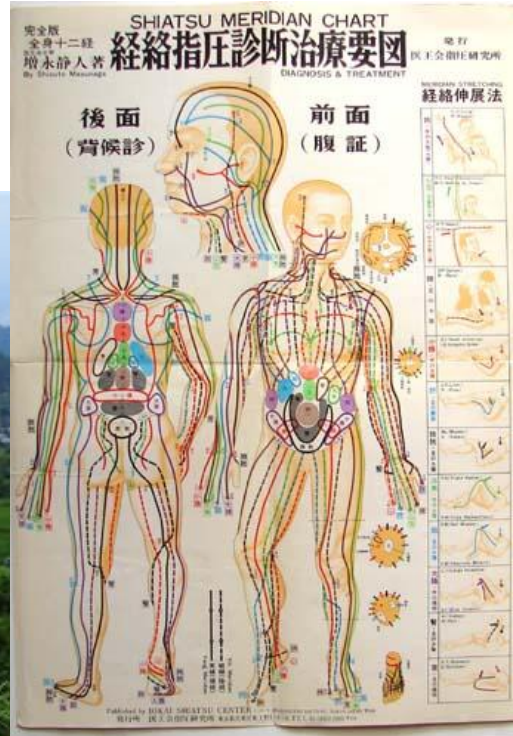
(もやい なおし)

人間関係をつなぎ直す。人と自然をつなぎ直す。

そして、世代と世代をつなぎ直す。

(吉本哲郎)

水の「経絡」



ー地域の人と集落を歩くー（地元学）



集落の成り立ち（つながり）と、
地域に入る**心得**（作法）を、
地域に触れて学ぶ。
地域の、**景観を読み解く**。



1. 目的

中山間地のそれぞれの集落は、どのような**自然条件**の中で、
どのような**社会の変化**の中で、どのような**知恵**をもって、
それぞれの時代に**暮らし**をつくってきたのでしょうか。

時代は1960年前後、と現在の対比。

上皇ご夫妻ご成婚・・・1959年

東京オリンピック、東海道新幹線開業・・・1964年

燃料革命前、高度経済成長以前。

石油と農業機械に依存しない時代、

農業ではなく、農的暮らしの時代、

集落はどのような資源と人で成り立っていたか。

その延長に現在があり、未来を考えるヒントがある！

そんな地域の風土や文化、生活、歴史…

人々が今につないできたものを体感する。

「食」と「農」意味の変化

60年前までの「食」と「農」

食 = 生命(いのち)そのもの
自分の身体をつくり、
生かす。

農 = 生きるという行為。

(身土不二、アフリカに農民はいない)

現代の「食」と「農」

食 = お金で栄養素を購入し、
摂取する。
.....(分離).....

農 ≠ 農をベースとした産業(農業)

お金を得て生活をまかなう。

2. 調べるもの

水（水源、水路、川、谷など）、

光（日照時間、陽射しなど）、

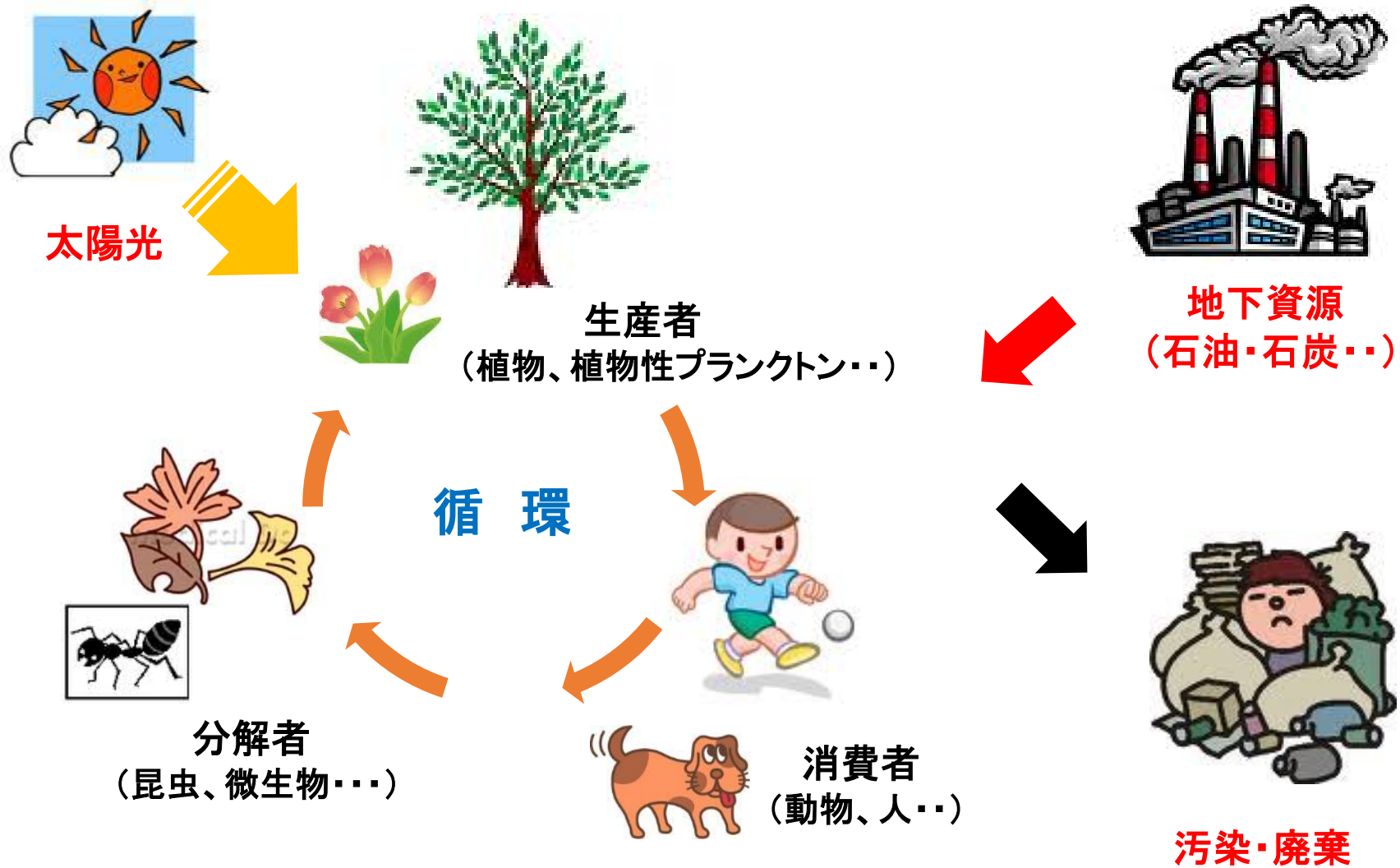
風（強さ、季節、風の道など）、

土（地形、地質、地味など）、

生き物（植物、動物、魚、獺、食害、利用、貯蔵など）

神様・心（神棚、石仏、信仰、有り難いもの、祈り、祭りなど）

地球生態系 —現代の社会とは—



産業 （日々の生業、稼ぎ、自家消費など）、

食べ物 （種類、日常とハレの日、調理、素材など）、

家 （種類、材、利用など）、

道具 （種類、材、加工など）、

衣服 （材料、機織りなど）、

薬 （調達、自然素材など）、

その他 なんでも、

古いもの、新しいもの、興味をもったもの、全部！

3. 心得

- **先入観を捨てて聞く**・・・とにかく地元の人話を聞いて、質問し、メモをとりましょう。
民俗学の知識や、自分の経験を押し付けないように。
- **名所、旧跡調べではありません**・・・生活の場に当たり前にあるもの、あったもの、人々がどうやって生きてきたのかを調べましょう。
- **対等な立場で聞く**・・・子供たちにも同じ目線で。
- **具体的な内容を聞く**・・・
「農業はどうですか」という一般的な質問ではなく、「田植え はいつか」、「茶摘みはいつ頃からか」、「この野菜は地元では何と呼ぶか」、「この草は何に使っているか」など、**具体的**に聞いていきましょう。

4. まとめ作業

- 模造紙に集落ごと、**タイトルをつけて「地域マップ」**をまとめます。

フィールドワークで気づいたこと、集落の人々が大切にしていたことを書き込み、

手書きのイラストなども加えて、仕上げていきます。

また、発表で投影する写真は整理して、5～10枚をピックアップしてください。

- 出来上がった「地域マップ」には**過去と現在**が混在します。

その中から10年後の**未来**も想像してください。その集落の人々が10年後に、どんな生活を営んでいるか。何を大切に思い、何を未来につなぐのか。

あなたはどのように関わられるのか、地元の方も交えて、話し合えれば素敵です。

- 「地域マップ」は、各グループごとに、発表をしていただきます。



最後に

フィールドワークを通じて、参加する私たちは、地元の方にお世話になり、
沢山のものをいただきます

みなさん、それをどうしたら、少しでもお返しができるか、ぜひ考えてください

一緒に未来を語ること、長い友情をつくること、何度も訪ねること、共同作業
に参加すること・・・いろいろありますね

参加者にとっても、地元の方にとっても、

この出会いが価値あるものとなりますように



すべての生命は、多様でありながら、
一つにつながっている。